

所員活動一覧（二〇一六年一月一日～二〇一七年三月三十一日）

荒木 浩

●著書

『夢と表象 眠りとこころの比較文化史』（編集）勉誠出版 二〇一七年一月 五九二頁

『天野山金剛寺善本叢刊 第一期 第二卷 因縁・教化』（後藤昭雄監修、近本謙介と共編）勉誠出版 二〇一七年一月 全二巻 一三六〇頁

●論文

「対白框看夢的形象」『日語学習与研究』（中国語、史瑞雪訳）二〇一六・五、一八六号 二〇一六年一〇月 一～六頁

「夢と自照―古代仏教の言説と対外観をめぐって」『夢と表象 眠りとこころの比較文化史』勉誠出版 二〇一七年一月 四五五～四七八頁

「女の目、男の目―稲荷の女をめぐる赤染衛門と大江匡衡」『朱』第六〇号記念特集 伏見稲荷大社 二〇一七年三月一日 一六三～一七八頁

●その他の執筆活動

「翻訳 ギュスターヴ・ヘルトによる書評 トークイル・ダシー著『万葉集と古代日本の想像の帝国』（Torquill Duthe, *Manyōshū and the Imperial**Imagination in Early Japan*. Leiden: Brill, 2014.）『日本研究』第五四集 二〇一七年一月 一二九～一三二頁

石上阿希

●著書

『晝斎春画』（定村来人と共著）青幻舎 二〇一七年二月 二二八頁

●その他の執筆活動

「解説 春画研究者・石上阿希さんに聞く 北斎の春画ワールド」『美術手帖』二〇一六年一二月号増刊

「東西職人ら現代に復刻 木版技術を継承へ」『毎日新聞』（大阪版・夕刊）二〇一七年一月一九日

石川 肇

●その他の執筆活動

「先人に見る日本型1R」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No. 94 二〇一六年十二月 四〜五頁
「馬の文化手帖 Season2」(連載一二回)『週刊 Gallop』二〇一七年一月一五日号〜三月二六日号

磯田道史

●著書

『江戸の家計簿』(監修、文庫)宝島社 二〇一七年一月 一八九頁

『徳川がつくった先進国日本』文藝春秋 二〇一七年一月 一五六頁

Usung Heroes of Old Japan 『無私の日本人』英語翻訳版、ジュリエット・ウインターズ・カーペンター訳 出版文化産業振興財団 二〇一七年三月 二〇八頁

●その他の執筆活動

「古今をちこち」(連載六回)読売新聞(朝刊) 二〇一六年一〇月二日〜二〇一七年三月一五日

「世の中を良くする種」読売新聞(朝刊) 二〇一六年一〇月一四日

「対談 京の視座(中島啓勝と)」朝日新聞(朝刊) 二〇一六年一月一〇日

「対談 未来メディアカフェ(万城目学と)」朝日新聞(朝刊) 二〇一六年一月二一日

「書評 瀧井一博著『渡邊洪基』」毎日新聞(朝刊) 二〇一六年一月一三日

「対談 京都のこれから、新聞のこれから(内田孝と)」京都新聞(朝刊) 二〇一六年一月二二日

「講演録 地震・津波から生き延びる知恵」第20回海岸シンポジウム報告書 二〇一六年一月二八日 一四〜二四頁

「対談 特別対談日本の人口減少は「直系家族病」だ(エマニュエル・トッドと)」『文藝春秋』二〇一六年二月号

「書評 呉座勇一著『応仁の乱』、諸田玲子著『梅もどき』、中野信子著『サイコパス』」毎日新聞(朝刊) 二〇一六年二月二一日

「書評 沢山美果子著『江戸の乳と子ども―いのちをつなぐ』」毎日新聞（朝刊）二〇一七年一月一日

「書評 黒木喬著『江戸の火事』、高田郁著『銀二貫』、寺田寅彦著『天災と国防』」朝日新聞（朝刊）二〇一七年二月五日

磯前順一

●論文

「いかにして近世日本を研究するか——近代の「想像／創造」論を超えて」ピーター・ノスコ、ジェームス・E・ケテラー、小島康敬編『江戸のなかの日本、日本のなかの江戸 価値観・アイデンティティ・平等の視点から』柏書房 二〇一六年一月 三七六〜四〇三頁

「津田左右吉の国民史構想 多民族帝国における単一民族国家論の役割」『アリーナ2016』第一九号 中部大学 二〇一六年一月 二五八〜二九二頁

伊東貴之

●著書

『シリーズ・キーワードで読む中国古典4 治乱のヒストリア——華夷・正統・勢』（編集、渡邊義浩・林文孝と共著）法政大学出版局 二〇一七年三月一日 二五二頁

●論文

“Postwar Japanese Research on the History of Early Modern Chinese Thought,” *ACTA ASIATICA: Bulletin of the Institute of Eastern Culture (Japanese Research on Intellectual Trends in China and Korea from the Eleventh to Seventeenth Centuries)*, No. 112, The Toho Gakkai (The Institute of Eastern Culture), February 2017, pp. 1-30 (査読付き)

「勢について」伊東貴之編（渡邊義浩・林文孝と共著）『シリーズ・キーワードで読む中国古典4 治乱のヒストリア——華夷・正統・勢』法政大学出版局 二〇一七年三月一日 一四一〜二二二頁

「戦後日本の中国哲学・思想史研究における比較思想的な観点や視座について——問題提起を兼ねた概観——」『比較思想研究』〔特集3〕今、比較

思想の方法論を問う・第3回」 第四三号 比較思想学会 二〇一七年三月 六九〜七四頁

●その他の執筆活動

「二〇一六年／中国文学・文化 年末回顧 閻連科（イェン・リエンコー）の多様な貌——大作の翻訳相次ぎ、研究書も充実」『図書新聞』三二八四号 二〇一六年一月二四日号

「総説」伊東貴之編（渡邊義浩・林文孝と共著）『シリーズ・キーワードで読む中国古典4 治乱のヒストリア——華夷・正統・勢』法政大学出版社 版局 二〇一七年三月一日 一〜二八頁

稲賀繁美

●著書

『海賊史観からみた世界史の再構築——交易と情報流通の現在を問い直す』（編著）思文閣出版 二〇一七年二月二八日 八五二頁

●論文

「去勢・不能から瞬時性と輪廻転生、さらには可能世界の濃度測定へ——脱戦後日本美術に関する断片的な覚書（後）」『あいだ』二二九号（連載二一八） 二〇一六年一〇月二〇日 二三〜二九頁

「「うつしみ」と「いつくしみ」——文化継承と再編への軌跡 戦後七十年と自然の営み」『神園』第一六号 明治神宮国際神道文化研究所 二〇一六年一月三日三〜一八頁

「もの・こと・かお——霊性の憑依と転生をめぐる」『比較文明』第三二号 二〇一六年一月一日 四〜一一頁

「超越視覚文化的觸覚感知——重新定義博物館學中的「現代性」以調整數位化的全球尺度模型 Haptic Sensations Beyond Visual Culture: Redefining “Modernity” in Museology so as to Readjust the Digitized Global Scale Model」『現代美術 MODERN ART』北雙特刊 TAIPEI BIENNIAL 2016 第一八三号 中華民國一〇五年 臺北市立美術館 二〇一六年一月 六二〜七五頁

「ナムジュン・パイクと仏教思想——「没後10年 2020年笑っているのは誰？ ？+？=？」展より」『あいだ』二二二号（連載一一九） 二〇一七年一月二〇日 二〜一五頁

「和辻哲郎『風土』成立の時空と欧州航路―歴史的偶然と地理的必然との交差において」橋本順光、鈴木禎宏編『欧州航路の文化誌―寄港地を読み解く』青弓社 二〇一七年一月二七日 一八五〜二一七頁

「文化の翻訳性序説―造形藝術における」国際シンポジウム「日本における「美術」概念の再構築―記録集編集委員会編『「美術」概念の再構築（アップデート）―「分類の時代」の終わりに「Toward Updating the Concept of『Bijutsu (Art)』At the Ending of『Age of Classification』』ブリュッケ+星雲社 二〇一七年一月二七日 二九七〜三二二頁

「美術史は全球化しうるか?―極東の視点からする批判的注釈」『日本研究』第五四集 国際日本文化研究センター 二〇一七年一月三十一日 一〇五〜一二八頁

「序文」(一〜一七頁)、「研究計画および経緯」(三〜一三頁)、「海賊史観からみた世界交易史・試論」(三〇九〜三三三頁)、「「公的研究費」の不正使用に関するコンプライアンス研修会」を誉め讃える」(七七六〜七八六頁)、「あとがき―あらたなる海賊学の船出にむけて」(八〇九〜八一四頁)『海賊史観からみた世界史の再構築―交易と情報流通の現在を問い直す』思文閣出版 二〇一七年二月二八日

「特集・草間彌生 《彼女は 私の心の天の まぶしい銀河となる》」『ユリイカ』二〇一七年三月号 八〇〜八八頁

●その他の執筆活動

「推薦のことば 明晰な頭脳、破天荒な知的冒険」『平川祐弘著作集』勉誠出版社 二〇一六年一〇月

「現代のことば 希望の色は何色か」『京都新聞』(夕刊) 二〇一六年一月一日

「海賊史観から世界を見る」『グラフィケーション―特集―海賊・自由・ユートピア』(電子版) 第7号 二〇一六年二月号 二〜一一頁

「インターネット双方向的同窓会 Nichibunken Interactive Alumni Network 創設にむけての個人的提言」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No. 94 二〇一六年十二月 一〜二頁

「書評 橋本真之著『造形的自己変革』」『図書新聞』三二八二号 一二月一〇日

「パクリエイター異聞―台北での国際デザイン史研究学会での体験から(1)」『図書新聞』三二八三号(連載一六八) 二〇一六年十二月一七日

「書評 今井祐子著『陶芸のジャポニスム』」『図書新聞』三二八五号 二〇一七年一月一日

「「世界東京化計画」Tokyonizationの教訓―台北での国際デザイン史研究学会から(2)」『図書新聞』三二八六号(連載一六九) 二〇一七年

一月十四日

〔現代のことば 私腹の財から公共の財へ〕『京都新聞』（夕刊）二〇一七年一月二六日

〔等価交換の幻想から修復的司法の刷新へ——ヴァヌアツの事例紹介から〕『図書新聞』三二八七号（連載一七〇）二〇一七年一月二二日

〔現代アパレル業界考…文化資本幻想の再配置——台北の国際デザイン史学会から〕『図書新聞』三二八八号（連載一七一）二〇一七年一月二八日

〔コラム 夢と文学・夢という語彙——還暦の月日を跨いで（稲賀敬二・稲賀繁美） 荒木浩編『夢と表象 眠りとこころの比較文化史』

二〇一七年一月三〇日 一〇一〜一〇五頁

〔読んで心豊かに…はじめての『茶の本』〕『月刊 茶の間』二月号 二〇一七年二月一日 二九〜三七頁

〔理論としての台湾の可能性——『知識台湾 台湾理論的可能性』（麦田出版、2016）〕『図書新聞』三二八九号（連載一七二）二〇一七年

二月四日

〔世代間の遣り取りと隙間とに育まれる「光」——美術批評家ゾラの軌跡…『印象派の終焉』の著者・リチャード・シフの来日にちなんで〕『図

書新聞』三二九〇号（連載一七三）二〇一七年二月一日

〔現代のことば 高等教育・研究の危機的状况〕『京都新聞』（夕刊）二〇一七年三月一日

〔書評 松岡宏明著『子供の世界 子供の造形』〕『図書新聞』三二九四号 二〇一七年三月一日

井上章一

●著書

『討厭京都——古都背後、不可一世的優雅與驕傲』（中国語翻訳版、王華懋訳）三采文化股份有限公司 二〇一六年十一月四日 二〇六頁

『京女の嘘』PHP研究所 二〇一七年一月二〇日 一九六頁

『阪神タイガースの正体』（文庫）朝日新聞出版 二〇一七年二月二八日 四〇九頁

●その他の執筆活動

- 『洛外』に隠れた名所あり』『サライ』二〇一六年一〇月号
- 『書評 鹿島茂著『ドーダの人、小林秀雄』』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一六年一〇月六日
- 『書評 森下章司著『古墳の古代史』』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一六年一〇月二七日
- 『美しい女子大生は、どこにいる』『PHP増刊』二〇一六年一二月号
- 『座談会 みんなやっばり京都が好き（船越英一郎、綿矢りさと）』『文藝春秋』二〇一六年一二月号
- 『丹下健三の大東亜——富士山とローマをむすぶ糸』朴美貞・長谷川怜編『日本帝国の表象——生成・記憶・継承』えにし書房 二〇一六年一一月五日
- 『下町のおばちゃんが育てた』『日経アーキテクチュア』二〇一六年一二月一〇日号
- 『書評 アンナー・ビルスマ著『パッハ・古楽・チェロ』』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一六年一〇月二四日
- 『書評 ヴァレリー・アフアナシエフ著『ピアニストは語る』』『週刊ポスト』二〇一六年一二月二日号
- 『対談 現代化が奪うエロス（花房観音と）』『京都新聞』（朝刊）二〇一六年一二月八日
- 『書評 林丈二著『文明開化がやって来た』』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一六年一二月一五日
- 『対談 『景観美』と言えるのか（中島啓勝と）』『朝日新聞』（京都版・朝刊）二〇一六年一二月一七日
- 『項目執筆 中華思想、桂離宮、京美人、数寄屋』『対談（酒井順子と）』『別冊太陽（京都を知る100章）』二〇一六年一二月一八日
- 『回顧 二〇一六 私之三冊』『日本経済新聞』（朝刊）二〇一六年一二月二五日
- 『建築で虚勢をはる独裁者のいとなみ』『SAPIO』二〇一七年一月号
- 『除了巴掌大的“洛中”、都是乡下』『京都漫歩』北京联合出版公司 二〇一七年一月
- 『秋田、新潟、そして京都——それぞれの美人論』『PHP増刊』二〇一七年一月号
- 『文化庁がやってくる（池坊専好と）』『産経新聞』（朝刊）二〇一七年一月一日
- 『イタリアでは街並みの持続性こそが優先される』『週刊ポスト』二〇一七年一月六日

- 「書評 桃崎有一郎著『平安京はいらなかった』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一七年一月二二日
- 「永山の下に眠っている歴史の可能性を思わせる」『遼』 二〇一七年一月二〇日
- 「座談会 地域再生道筋探る(和泉康夫、永田紅、深尾昌峰、松永桂子と)」『読売新聞』 二〇一七年一月二九日
- 「大阪が壊れ、消える!」『SAPIO』 二〇一七年二月号
- 「『源氏姉妹』に、おののいて」『波』 二〇一七年二月号
- 「常盤——ミス平安は、この人だとどめをさす」『PHP増刊』 二〇一七年二月号
- 「『人文研』の生き証人」(再録) 『知性・一九五七——二〇一七』 二〇一七年二月
- 「書評 尾本恵市著『DNAでふりかえる人類史』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一七年二月二日
- 「書評 松隈洋著『建築の前夜』『週刊ポスト』 二〇一七年二月三日号
- 「書評 山本有造著『カロライン・フット号が来た!』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一七年二月二三日
- 「十年間の新書ベスト三」『目利き』二人が選ぶ二〇一六年私のオススメ新書 『中央公論』 二〇一七年三月号
- 「大阪と関西を考える」『WEEKLY REPORT (大阪北ロータリークラブ)』 二〇一七年三月一五日
- 「書評 山本雄二著『ブルマーの謎』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一七年三月一六日
- 「日本の姿——戦争と街並から見えること」『交詢雑誌』 二〇一七年三月二〇日
- 「大阪まみれ」(連載二二回) 『産経新聞』(夕刊) 二〇一六年一〇月三日〜二〇一七年三月二七日
- “Possibilities of Modern Architecture” 瀧井一博編『失われた20年と日本研究のこれから/失われた20年と日本社会の変容——海外シンポジウム 2015 日文研・ハーヴァード』国際日本文化研究センター 二〇一七年三月三一日

牛村 圭

● 論文

「宴のあとに——オリンピックを問う」『琅』三二号 二〇一六年一〇月 二〇二頁

●その他の執筆活動

〔竹山道雄を読む〕竹山道雄にめぐり会えて―平川祐弘編『竹山道雄セレクション I 昭和の精神史』藤原書店 二〇一六年一月 五五四～五六六頁

〔書評 熊野留理子著『日本教育占領』』『比較文明』三二号 二〇一六年一月 二四〇～二四三頁

●櫻本 涉

●論文

〔平安末期天台宗における宋代仏教へのまなざし―柴西入宋の前提として―』『佛教史學研究』五九卷一号 二〇一六年一月 一九～四一頁

〔宋日・元日間海上航路と高麗島嶼地域（宋日・元日間海上航路における高麗の島嶼）』『해양문화재』九号 二〇一六年一月 七二～一二二頁

〔悪石島の寄船大明神とその周辺〕稲賀繁美編『海賊史観からみた世界史の再構築―交易と情報流通の現在を問う直す』思文閣出版 二〇一七年二月二十八日 三九五～四一五頁

●大塚英志

●著書

『感情化する社会』太田出版 二〇一六年一〇月 二九五頁

『캐릭터 소설쓰는법』『キャラクター小説の作り方』(電子書籍版、韓国語、김성민訳) 북바이북 (한국출판마케팅연구소) 二〇一六年一月

『이야기 체조』『物語の体操』(電子書籍版、韓国語、김성민訳) 북바이북 (한국출판마케팅연구소) 二〇一六年一月

『캐릭터 메이커』『キャラクターメーカー』(電子書籍版、韓国語、신정우訳) 북바이북 (한국출판마케팅연구소) 二〇一六年一月

『이야기의 명제』『物語の命題』(電子書籍版、韓国語、신정우訳) 북바이북 (한국출판마케팅연구소) 二〇一六年一月

『세계만화학원』『世界まんが塾』(電子書籍版、韓国語、신정우訳) 북바이북 (한국출판마케팅연구소) 二〇一六年一月

『世界まんが塾』株式会社 KADOKAWA 二〇一七年三月 三〇一頁

『殺生と戦争の民俗学』柳田國男と千葉徳爾』株式会社 KADOKAWA 二〇一七年三月 三九〇頁

●論文

「범죄소년문헌론」『犯罪少年文学論』(韓国語, 최재혁訳) 『季刊「文化/科学」』八八号 二〇一六年二月 二六六〜二九〇頁

「『シン・ゴジラ』は感情天皇制を断念する」『ユリイカ』二〇一六年二月 二二六〜二二六頁

『妖怪学批判 2』『怪』Vol. 0029 二〇一六年一月 二七六〜二八九頁、「3」Vol. 0050 二〇一七年三月 二四二〜二五五頁

●その他の執筆活動

「インタビュー」『感情化する社会』の先にあるもの』『金曜日』二〇一六年一月 四〇〜四二頁

「書評」『文學界10月号』『週刊ポスト』二〇一六年一月二五〇日号

「インタビュー」「오타쿠 담론의 아버지, 한국에 오다」만화원작자이자 일본 대중문화비평가인 오쓰카 에이지와의 대담 「韓国を訪ねた「おたく

の言説」の父—まんが原作者・日本大衆文化批評家大塚英志との対話』『CINE 21』No. 1082 二〇一六年一月三〇日 八二〜八七頁

「濃度の薄い世界」『早稲田文学』早稲田文学会 二〇一六年二月 五四〜五五頁

「書評」柄谷行人著『憲法の無意識』『週刊ポスト』二〇一七年一月六日号

「書評」新谷卓著『終戦と近衛上奏文 アジア・太平洋戦争と共産主義陰謀説』『週刊ポスト』二〇一七年二月一〇日号

「web教材」ものがたり創作」N予備校 二〇一七年二月二一日配信開始

「書評」柄谷行人著『柄谷行人講演集 1995-2015 思想的地震』『週刊ポスト』二〇一七年三月二四日号

「八雲百怪」(森美夏と共著)『ヤングエース』二〇一六年一〇月号〜二〇一七年三月号

「恋する民俗学者」(中島千晴と共著)『ComicWalker』二〇一六年一〇月〜二〇一七年三月

「アライズキ、今宵も小豆を洗う。」(山崎峰水と共著)『ヤングエース』二〇一六年一月号〜二〇一七年三月号

「まんがでわかるまんがの歴史」(ひらりと共著)『ヤングエース』二〇一六年一月号〜二〇一七年三月号

郭 南燕

● 著書

『都靈聖殮布』（共訳）良友之聲出版社 二〇一七年二月 一〇四頁

● その他の執筆活動

「南十字星の下の海外シンポジウム」『日文研』五八号 二〇一七年三月 三七〜四三頁

「默會知識、得心應手——設計的東方思維與表徵鄭巨欣」許江、鄭巨欣共編『匠心文脈』中国美術学院出版社 二〇一六年一月 二五九頁

北浦寛之

● 論文

“The Lost Studio System: Reconsidering Japanese Film Production after the Bubble’s Collapse.” 瀧井一博編『失われた20年と日本研究のこれから／失われた20年と日本社会の変容——海外シンポジウム2015 日文研・ハーヴァード』国際日本文化研究センター 二〇一七年三月三十一日 二五二〜二五五頁

楠 綾子

● 論文

“The Early Years of the Ground Self-Defense Force, 1945–1960.” Robert D. Eldridge and Paul Midford eds., *The Japanese Ground Self-Defense Force*, New York: Palgrave Macmillan, 2017, pp. 59–131.

“The Debate on Japan’s Foreign and Security Policy During ‘The Lost Two Decades,’” 瀧井一博編『失われた20年と日本研究のこれから／失われた20年と日本社会の変容——海外シンポジウム2015 日文研・ハーヴァード』国際日本文化研究センター 二〇一七年三月三十一日 一九三〜二〇二頁

●その他の執筆活動

「書評 武田悠著『経済大国』日本の対米協調——安保・経済・原子力をめぐる試行錯誤、1975～1981年」『国際政治』第一八八号
二〇一七年三月 一四二～一四五頁

「項目執筆 「平和安全法制整備法」「国際平和支援法」「防衛装備庁」「安全保障技術研究推進制度」「ジブチ自衛隊拠点」「特殊作戦群」「米軍属」「同盟調整メカニズム」「北部訓練場の過半の返還」「日韓秘密軍事情報保護協定」「イミダス」「防衛」二〇一七年版

倉本一宏

●著書

『現代語訳小右記3 長徳の変』吉川弘文館 二〇一六年一〇月 二八八頁

『日記で読む日本史6 紫式部日記を読み解く』（監修、池田節子著）臨川書店 二〇一七年一月 二七〇頁

『日記で読む日本史12 物語がつくった驕れる平家』（監修、曾我良成著）臨川書店 二〇一七年一月 二〇七頁

『藤原伊周・隆家』ミネルヴァ書房 二〇一七年二月 二九八頁

●論文

『「御堂関白記」の『妻』と『妾』について』『説林』65 愛知県立大学国文学会 二〇一七年三月五日 五五～六二頁

●その他の執筆活動

『御堂関白記』『日本歴史』第八二四号 二〇一七年一月 五六～六二頁

『自著を語る』『藤原伊周・隆家』『究』二〇一七年一月号 一～二頁

フレデリック・クレインズ

●論文

「略奪品か戦利品か——一六一五年のサント・アントニオ号拿捕事件と幕府の対応」稲賀繁美編『海賊史観からみた世界史の再構築——交易と情

報流通の現在を問い直す』思文閣出版 二〇一七年二月二八日 三六五〜三九四頁

●その他の執筆活動

「オランダ人が見た大坂の陣」『NHU Magazine』三号 二〇一六年一〇月

「大坂方は士気高く―平戸オランダ商館文書が語る大坂の陣」『歴史街道』三四四号 二〇一六年二月 四六〜四七頁

「口絵解説 G・F・メイラン『日本』1830年刊所収」『日本研究』第五四集 二〇一七年一月

「平戸オランダ商館文書の調査研究―激動の江戸初期における対外関係を解き明かす」『きざし』一号 二〇一七年三月 一三頁

「口絵解説 江戸城図（モンターヌス『東インド会社遣日使節紀行』1689年版所収）」『日文研』五八号 二〇一七年三月

呉座勇一

●著書

『応仁の乱』中央公論新社 二〇一六年一〇月 三二八頁

●論文

『鎌倉大草紙』と小山義政の乱』義堂の会編『空華日用工夫略集の周辺』義堂の会 二〇一七年三月 三三〜五五頁

●その他の執筆活動

「交流の歴史学」（連載六回）朝日新聞（朝刊） 二〇一六年一〇月二二日〜二〇一七年三月二五日

「解説 後期網野史学の代表作」網野善彦著『日本中世に何が起きたか』株式会社KADOKAWA 二〇一七年三月

「対談 応仁の乱×第一次世界大戦 英雄なき時代の混沌に立ち向かう」（細谷雄一と）『中央公論』四月号 二〇一七年三月

小松和彦

●著書

An Introduction to Yokai Culture: Monsters, Ghosts, and Outsiders in Japanese History (『妖怪文化入門』英語翻訳版、依田寛子、マット・アルト訳)

出版文化産業振興財団 二〇一七年三月 一九六頁

●その他の執筆活動

「言葉の遠近法」（連載三回）『公明新聞』二〇一六年一〇月五日～二月七日

「解説 内藤さんの現場主義・フィールドワーク型の研究への敬意」内藤正敏・松岡正剛共著『古代金属国家論』二〇一六年一月 一五〇～一五九頁

「人の心を映し出す「器」」『朝日新聞』（夕刊）二〇一六年二月二一日

「異類婚姻譚をめぐる」『怪』vol. 0049 二〇一六年二月 三三～三七頁

「文化功労者に選ばれて」『公明新聞』二〇一六年二月二八日

「解説 水木しげるはいつから妖怪漫画家になったか」『水木しげるの漫画大全集』第五六卷（河童の三平・上）二〇一七年一月 五二〇～五二三頁

「講演録 自然災害と怪異伝承―民俗知の活用を考える―」（柳田國男記念伊那民俗学研究所総会記念講演会）『伊那民俗研究』第二四号 二〇一七年二月 二～二二頁

「コメント 怪異・妖怪の東西 比較妖怪学に向けて」天理大学考古学・民俗学研究室編『モノと凶像から探る怪異・妖怪の東西』二〇一七年三月 一四六～一五五頁

「講演録 グローバル時代の日本学―その現在と未来を考える―」東京外国語大学大学院日本学研究院編『国際シンポジウム…「国際日本研究」対話、交流、ダイナミクス』= Internationalizing Japan studies: dialogues, interactions, dynamics』(二〇一五年度) 二〇一七年三月 一～一五頁

「忍者の纏う虚像を剥がす」『怪』vol. 0050 二〇一七年三月 三二～三七頁

佐野真由子

●著書

『新領域・次世代の日本研究 New Vistas: Japanese Studies for the Next Generation』（細川周平・山田奨治・佐野真由子共編）国際日本文化研究セ

ンター 二〇一六年十一月 一七四頁

●その他の執筆活動

「国際交流史と万国博覧会」『Peace and Culture 青山学院大学社会連携機構国際交流共同研究センター』第九巻第一号 二〇一七年三月 一九～三七頁

「公用語について」『日文研』五八号 二〇一七年三月 三〇～三六頁

瀧井一博

●著書

『失われた20年と日本研究のこれから／失われた20年と日本社会の変容』『海外シンポジウム2015 日文研・ハーヴァード』（編著）国際日本文化研究センター 二〇一七年三月三十一日 二七六頁

●論文

「Japanese Society as a Place for Knowledge Creation and Cooperation」：瀧井一博編『失われた20年と日本研究のこれから／失われた20年と日本社会の変容』『海外シンポジウム2015 日文研・ハーヴァード』国際日本文化研究センター 二〇一七年三月三十一日 一三五～一四一頁

●その他の執筆活動

「インタビュー 耕論 国家の象徴とは」『朝日新聞』（朝刊）二〇一六年一〇月一四日

「政治学の古典を読む（一七） 国家建設の実践の書（ダントレーヴ（石上良平訳）『国家とは何か―政治理論序説』新装版）みすず書房 二〇〇二年）』『究』第六八号 二〇一六年十一月号 四四～四五頁

「インタビュー 東大初代総長 知の懸け橋」『読売新聞』（夕刊）二〇一六年十一月二四日

「政治学の古典を読む（一八） 情報と人情（松本剛吉（岡義武・林茂校訂）『大正デモクラシー期の政治…松本剛吉政治日誌』岩波書店 一九五九年）』『究』第七一号 二〇一七年二月号 四四～四五頁

坪井秀人

● 著書

五味湖典嗣・日高佳紀編『谷崎潤一郎読本』（千葉俊二他と共著）翰林書房 二〇一六年一月 三五五頁

宇野田尚哉・川口隆行・坂口博・鳥羽耕史・中谷いずみ・道場親信編『「サークルの時代」を読む——戦後文化運動研究への招待』（共著）影書

房 二〇一六年一月 三六六頁

● 論文

「二十世紀日本語詩を思い出す」『現代詩手帖』思潮社（連載） 第五九卷一〇号（連載一八） 二〇一六年一〇月 一三〇～一三九頁、第五九卷
一一号（連載一九） 二〇一六年十一月 一六〇～一六八頁、第六〇卷一号（連載二〇） 二〇一七年一月 一〇四～一二頁、第六〇卷二号
（連載二一） 二〇一七年二月 一三八～一四七頁、第六〇卷三号（連載二二） 二〇一七年三月 一三六～一四六頁

ジョン・ブリン

● 著書

A Social History of the Ise Shrines: Divine Capital (co-authored with Mark Teeuwen), Bloomsbury, February 2017, 302 pages.

● 論文

“Amaterasu’s progress: the Ise shrines and the public sphere of postwar Japan,” *Hugh Cortazzi ed., Carmen Blacker: scholar of Japanese religion, myth and folklore: writings and reflections*, Renaissance Books, January 2017, pp. 396–412.

● その他の執筆活動

「書評 神崎宣武・白幡洋三郎・井上章一編『日本文化事典』『學鑑』第一一三卷第三号 二〇一六年九月 五八～五九頁

古川綾子

●その他の執筆活動

- 「現代のことば」(連載三回)『京都新聞』(夕刊) 二〇一六年一〇月七日〜二〇一七年二月八日
 「上方落語の舞台 十選」(連載八回)『日本経済新聞』(全国版・朝刊) 二〇一七年三月二〇日〜三月三十一日

細川周平

●その他の執筆活動

- 「間嶋さん」『ブラジル俳文学』二〇一六年一〇月号(三八九号) 一九頁
 「書評 クリスティン・グレイネル著『日本の身体を読みとその認知的ディアスボラ』(Christine Greiner, *Leituras do Corpo no Japão e Suas Disparos Cognitivos*. São Paulo n.1 edições, 2015)」『日本研究』第五四集 二〇一七年一月 一三三〜一三六頁

松田利彦

●著書

関周一編『日朝関係史』(共著) 吉川弘文館 二〇一七年二月 四一六頁

●論文

- 「日帝強占期、日本朝鮮関係記録―朝鮮植民地支配에 있어 政策担当者的의 個人記録을 中心으로」韓日文化交流基金編『韓日兩國、서로를 어떻게 기록했는가?』景仁文化社 二〇一七年二月 三三三〜三九〇頁
 「一九二七年、植民地朝鮮における華僑排斥事件」『韓国朝鮮文化研究』(東京大学韓国朝鮮文化研究室研究紀要) 第一六号 二〇一七年三月 一〜三四頁

山田 斐治

● 論文

“Changes in Japanese Copyright Law Post-1990s: US/Corporate Interest vs. User Demand.” 瀧井一博編『失われた20年と日本研究のこれから』失われた20年と日本社会の変容——海外シンポジウム2015 日文研・ハーヴァード』国際日本文化研究センター 二〇一七年三月三十一日 二三九〜二五〇頁

● その他の執筆活動

「コメント 美の殿堂 企業名賛否 命名権問題 戸惑いと期待」『京都新聞』（朝刊）二〇一六年一〇月七日

「監修 アメリカ西海岸の新しいZENをめぐる旅」『S F ルネサンス20の息吹 アート・ZEN・テックの新しい関係性』「インタビュー SPECIAL INTERVIEW 村上隆に聞く、芸術作品に自由を宿す、修行としてのZENアート」『美術手帖』二〇一六年一二月号

「JASRACはなぜ嫌われるのか？ 音楽ユーザーの自由狭まり「悪者」に」『withnews』二〇一七年一月一〇日

マルクス・リュッターマン

● 著書

（共編）*Japonica Humboldtiana* vol. 18 (2016), Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, February 2017, 259 pages.

● 論文

「『一筆啓上』の礼儀作法―行動学に込める記号学を検討して―」山口大学人文学部『異文化研究』第一号 二〇一七年三月 八八〜一〇〇頁

劉 建輝

● 論文

「19世紀初稿的中国開埠地——東亜『近代』從這里開始」寧稼雨他編『孫昌武教授八十華誕紀念文集』百花文藝出版社 二〇一六年一月 一五七〜一八〇頁

「現代中国文学の日本因縁」 黄自進・潘光哲編 『近代中日関係史新論』（近代中日関係学叢書） 稻郷出版社 二〇一七年三月 五一五～五四五頁
●その他の執筆活動

「コラム 広州十三行」 稲賀繁美編 『海賊史観からみた世界史の再構築——交易と情報流通の現在を問い直す』 思文閣出版 二〇一七年二月
二八日 四四三～四五〇頁